



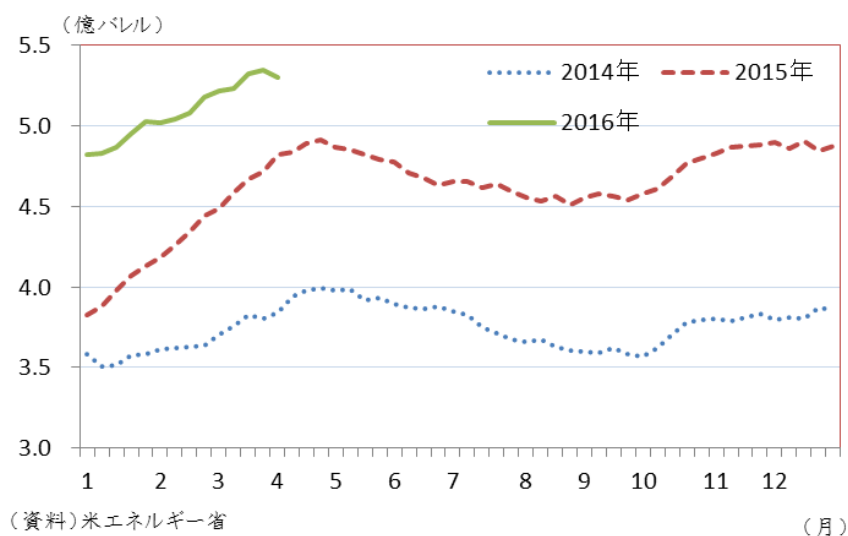
2016年4月8日

## 原油:OPEC 総会への期待薄れ、価格低迷が続く見込み

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

2月以降、原油価格は持ち直してきたが、原油の需給は緩んだままであり基本的にショートカバーの域を出ていない。図1は米国の原油在庫量（戦略備蓄を除く）の推移を示している。在庫量は足元で5.3億バレルになっている。昨年と同時期と比べると10%、一昨年と比べると38%上回っており、過去25年で最大となっている。在庫が溜まっているのは原油だけではなく、ガソリンなどの製品も同じである。蒸留燃料在庫は約1.6億バレルあり、昨年水準を27%、一昨年を43%上回っている。

図1. 米国の原油在庫



そして、在庫がだぶついているのは米国に限らない。最近の報道によると、アラブ首長国連邦(UAE)の国営石油会社 Adnoc は、インドの原油貯蔵設備に原油を無料で引き渡した。UAE 国内の貯蔵設備が満杯になりインドに泣きついたものとみられる。市場を通さないことで価格下落の実現を防いだのだろうが、要するに投げ売りである。

貯蔵タンクの不足は世界中で問題になりつつあり、緊急の貯蔵先として原油タンカーが使われている。2年前の海上貯蔵は8千万バレルであったが、足元では1.6億バレルを超えていると言われている(ブルームバーグ)。

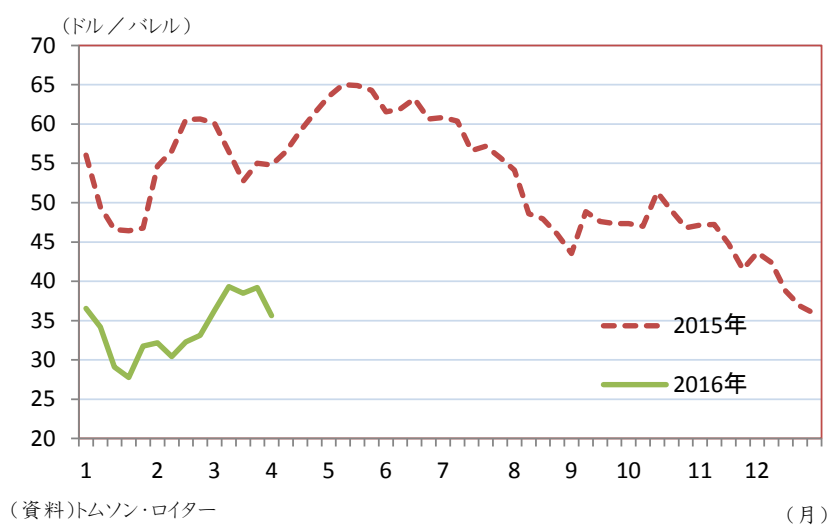
世界景気の鈍化で原油需要は伸びていない。需給は緩和したままであり、世界で 150 万～200 万バレル／日の供給過剰となっている。こうした中、主要産油国の足並みは乱れており、減産はおろか生産の凍結すら難しくなっている。

サウジアラビアは 4 日、他国の参加を条件に減産すると表明した。だが、イランは西側諸国による制裁前のシェアを回復するまで増産すると繰り返しており、実際に輸出量は 3 月、日量 25 万バレル増加し、200 万バレル／日に達していたことが、イランの国营通信社によって明らかにされた。イランの昨年の輸出量は 110 万バレル／日であった。サウジはイランへの苛立ちを募らせている。英フィナンシャルタイムズによると、サウジはイラン産原油を積んだタンカーのサウジへの寄港を禁止した。

逆に、イランは 17 日の OPEC 総会を欠席する可能性を示唆している。ザンギャネ石油相は、総会参加について「時間があれば」と述べている。ロシアも既に生産量凍結合意を反故にしている。3 月の生産量は 1,091 万バレルになっており、凍結水準である 1 月の生産量を上回っている。

原油価格は昨年も 2 月を底にいったん回復したが、5 月にはピークを迎えその後は下落していった。今年も似たようなパターンに陥りそうである。

図 2. 原油価格（北海ブレント）



当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。